



はくろ（白鷺）の散歩Ⅵ

令和6年10月17日
～校長室の窓から～ 令和6年度 No.12
神奈川県立平塚中等教育学校
校長 松本 靖史

【翠星祭ウィークが始まる】

令和6年10月15日（火）からは、翠星祭文化部門の直前の準備が始まりました。これまで後期生を中心に土日を利用しての準備も進んできましたが、いよいよ学校全体で準備が始まります。

10月16日（水）は、翠星祭関係で出てくるゴミを集めるコンテナが設置されたり、翠星祭のパンフレットが生徒に配付されたりしました。また、後期バスケットボール部の生徒の協力により、体育館にシートを設置しました。



10月17日（木）はいよいよ全日準備が始まりました。朝8時50分からは机、椅子の移動を開始しました。また、吹奏楽部の生徒の協力により、体育館に椅子を設置しました。

机・椅子の移動が終わると、前期生は体育館へ移動し学習成果発表会です。後期生はブロック別に文化部門の準備です。正門にはアーチが組み立てられました。午後からは、体育館では各発表団体のリハーサルも始まりました。中庭では中庭ステージが設営されました。

10月18日（金）はいよいよ前日の準備です。各会場もそれらしい雰囲気が出てきました。体育館には、業者による音響設備がセットされました。

【学習成果発表会・洗練された内容に】

令和6年10月17日（木）の午前中、前期課程生を対象に学習成果発表会が開かれました。これまでは、翠星祭文化部門と同日に行っていましたが、今年は別日程で2つの行事を切り離して行いました。前期生はそれぞれの活動にいっそう集中できるようになったのではないのでしょうか。内容もより洗練されてきたように感じました。

まずは、国語科の弁論大会が開かれ、1～2年のクラスから選抜された各1名が実感のこもった熱い主張を3分間繰り広げました。聴衆に拳手を

させてアンケートを取ったり、自分の主張を支えるデータや知識を披露したりしながら、それぞれが説得力あるスピーチを作り上げていました。スピーチの中には、日頃の中等生の行動に対する自戒のような、反省のようなものも垣間見られ、前期生の皆さんの成長を頼もしく感じました。



次は理科の発表です。滑空する蝶としない蝶のそれぞれの様子をスマホで撮影し、特徴を丹念に比較しながら、蝶の形態



や動きの秘密を考察する研究や、濡れない傘の差し方の研究など、身近な気付きから始まった探究心の無限の拡がりを感じられる発表が多くあり、十分に楽しめました。他の発表も含め、今後個々の探究がもっと掘り下げられていくと、大発見につながるようなものに発展するかもしれません。

三番目は社会の発表です。1年生は授業で行った、自らが設定したテーマで企画した世界旅行ツアーのプレゼンテーション。世界中の美しい海をめぐるツアーが美しい現地の写真とともにプレゼンされましたが、休みを取って旅に出てみたいという気持ちにさせられました。



2年生はこの夏に実施された、北方領土問題について考える青少年交流会に参加したメンバーによる報告と発表がありました。同じ中等生が届けた「多くの人に知ってもらいたい」「忘れない・風化させない」というメッセージは、会場の生徒たちにとって北方領土問題を身近に感じるきっかけになったことと思います。（澤村副校長）

